

2 2 8

こんにちは。塾長の大井です。

7期生の受験が終わりました。皆様のエールも後押しとなり、今年も御三家中に合格者を出すことができました。これでTOPからは6年連続で御三家・新御三家の合格です。

悔しい想いもありましたが、7期生たちは最後まで全力で戦い抜きました。叶わなかった夢の続きは、中学で、またその先の人生で、彼らならきっと叶えてくれると信じています。

6期生受験戦記を再開します。今回は第13回です。

年が明け、2020年が始まりました。

クラスには依然として大きなレベルの差がありました。それでも各々が第一志望にはまだまだ足りないという点は全員に共通していました。

1月上旬ついに入試の幕が上がりました。まずは埼玉シリーズです。

ここでクラスの多くの生徒たちが本番の厳しさを突きつけられることになります。

6人が栄東中にエントリーしました。これまではほぼ全ての生徒が手堅く取ってくる「合格を取るための併願」でしたが、受かったのはTくんとSさんだけでした。クラスの下位の生徒たちは軒並みやられました。もちろん良しとはしませんが、照準はあくまで2月です。まだまだ甘えがあり過ぎる彼らには、下手に合格を取るよりいい薬です。

「これが入試、これが本番だ。やれることをやらないうちは合格なんて程遠い。もう変わる時が来たぞ。」と全員に発破がけしました。

苦い想いをしたのはエースのTくんも同様でした。2戦目の栄東こそ東大クラスで受かったものの、開成模試として受けた西大和中で初戦を落としました。開示された得点では10点差での不合格でした。田宮は「普段できることをまったくやれていない。」と、本番の厳しさと受かるべくして落ちた無念を活かすよう伝えました。

ただ、得点を見るとずっと苦労してきた国語で大きく貯金を作る出来で、彼の努力が実りつつあるのを感じました。

とはいえ難関校では、算数国語を絶対に揃えなければならず、特に算数での穴は致命傷になります。

そして、田宮の最後の追い込みがここから始まります。

(第14回につづく)

2021年3月5日

大井 雄之